

教育委員会の跡を図書館に

早い時期に改修し移転／教育長



やました いっこ 議員
山下伊都子

つたりと落ち着いて本に親しめる環境づくりが必要ではないか。

幸い教育委員会が佐賀庁舎に移転するので、その跡を図書館に出来ないか。

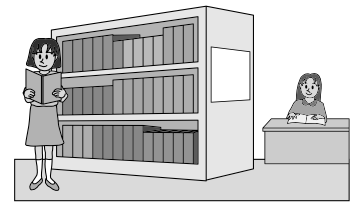
答

松並教育長

佐賀図書館の現状は廊下には本が溢れ、部屋の中は机がひとつ、その周りを本棚に囲まれている状態。2、3人の利用者があれば背中をつき合わせて本を選んでいく。少しでも雑談すれば、たちまち利用者の迷惑になり声をひそめて話さなければならぬ。調べ物をしたくても出来る状態ではない。図書館の利用者が少ないのではなく、図書館の利用がしづらい現実ではないか。図書館に行けば明るくゆ

佐賀図書館の面積は、全体で42㎡しかなく非常に狭く、机や椅子も少ない。今年4月から、教育委員会が佐賀支所へ移転が正式に決定した。教育委員会の事務所64㎡の面積と教育長の部屋、21㎡ある。合わせると現在の図書館の2倍の面積になるので住民の皆さまが利用しやすい充実をした図書館づくりをしたい。既存の建物で有効利用という面から部屋の改修等を具体的に検討し、なるべく早い時期

に移転ができるように検討をしたい。



佐賀中学校を木造校舎に

内装を木造に／教育長

佐賀中改築

問

町内を見ても不況で建築現場では悲鳴の音が聞こえている。町内の大工さん製材所など地元の業者が潤うように行が指導していく必要がある。

また、環境問題が大きな問題になっているときこそ地元の木材に目を向けた地産地消の取り組みが必要ではないか。そこで、公共事業として佐賀中学校が建設される。どの様な工法で建築するのか地元では大きな関心事になっている。中学校の校舎の建設をどの様に改築するのか聞く。

答

松並教育長

県も公共施設の建設には木材利用の推進している。木材は柔らかく温かみのある感触があり、室内の湿度変化を緩和させ、快適性を高めるなど優れた性質を持っている。

学校施設に木材を使用することが温かみと潤いのある教育環境づくりに効果と期待できるが、主体構造部を木造にする、建物の強度を確保する耐震性、耐火性の確保が必要になる。木造建物は規模により、鉄筋コンクリート造りに比較してコスト増になる。佐賀中学校は3階建て構造

で、木造では強度上の問題が生じる。総合的に判断した結果、建物の主体構造部分を鉄筋コンクリートとした。屋根の部分は切妻式、三角屋根形とする。教室や床、廊下など内装はなるべく木材を使用していくので理解をいただきたい。

